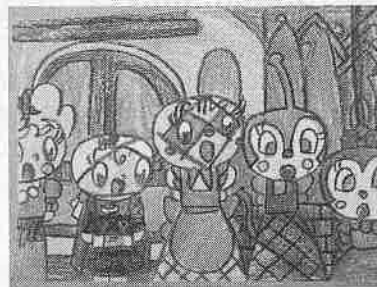
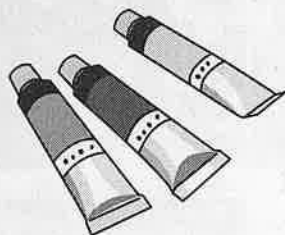
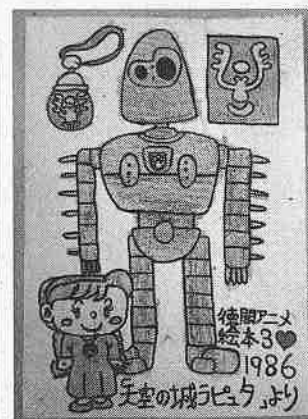
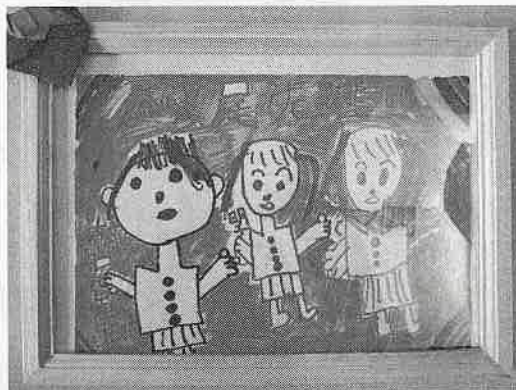
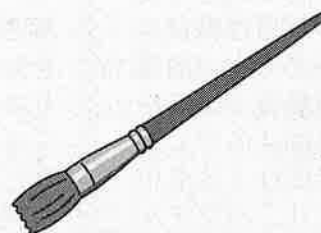
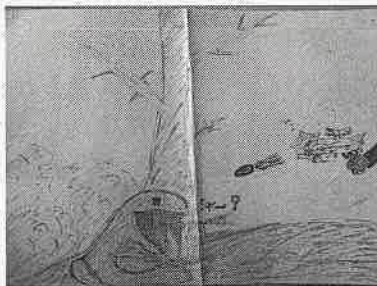


みどり

第39号

題字：村上昭史 園長



「時のつながりの中で変わること」

「川部みどり園のあり方検討委員会」の提言を平成20年に受け、6年が経過しました。その間の地域生活移行により成人入所利用者数は半減し、入所支援利用に一定の結果が出て、今年度は新たに1名の利用者を受入れました。法制度は変わり、提言当時の自立支援法は「障害者総合支援法」と名を変え、障害者の地域生活への支援体制は整備されつつあるように感じられます。

他にも振り返ると、日中活動では、3年目になるSST(社会生活技能訓練)に加え、新たにコグニティブ・トレーニング(認知機能訓練)のプログラムも組みました。

川部みどり園長 村上 昭史

児童課では、これまでの構造化の取組を全国や中四国の大会で発表し、園内外に成果を広めることに加え、利用児童個別のサポート情報メモを作成しました。これは子どもたちそれぞれの理解への一助にするとともに、災害時等にも利用児情報を的確に伝えるための手段と位置づけています。

制度や時代は移れど、みどり園では生活の地に足をつけ、年々支援に工夫を積み上げています。利用児・者と家族そして職員の間で、つながりの中を進歩しつつ、来年度もより充実した施設へと変貌を目指します。

25年度を振り返って ～本年度新しくチャレンジした支援～

＜生活介護A班＞

4月から利用者メンバーも職員メンバーも新たに「生活介護A班」がスタートしました。

支援体制で大きく変わったのが男性職員が増えたことです。前年度は支援職員12名中、男性職員は4名でしたが、今年度は13名中6名となり、パワフルな支援が毎日展開されています。日中活動の更なる充実を目指し、職員が一丸となりパワフルかつ繊細な支援を心がけていきたいと考えています。(喜多)

＜生活介護B班＞

言葉のある人は言葉で、ない人はジェスチャーなどで自分の意思を表現することを目標に、毎週「言葉ゲーム」の時間を設定しました。わかっているつもりで話していたことが理解されていなかったり、意外と単語を知っていたり、発見もたくさんありました。まだまだ隠れた才能をたくさん持っていそうです。今年度はみどり園まつりで大作「春夏秋冬」の制作や、ファッションモデルになったり才能を開花した人もたくさんいました。(藤田)



＜生活介護C班＞

C班では利用者さんが順番に日直をしています。日直には朝礼・終礼の号令かけ等の役割があるのですが、全員の出席を取ることを加えました。言葉を話すことが難しい利用者さんもありますが、必須アイテムが登場します。写真の絵カードを使うことでコミュニケーションが生まれ、各自のスタイルで出席が取れるようになってきています。(伊澤)



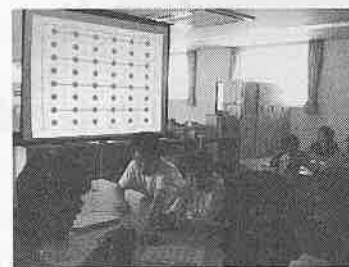
＜生活訓練班＞

生活訓練班では新たに地域生活安全学習を始めました。将来、地域で生活できるために、社会のルールを学ぶことを目的にしています。地域で安全に暮らしていくために犯罪防止、被害防止の意識を高めることはとても重要です。時には分厚い六法全書を開いて法律を読みながら、目に見えないルールを学習しています。(岩崎)



＜就労移行支援班＞

今年度より、生活訓練と合同プログラムを開始しました。宮川医療少年院の宮口博士が考案した「コグトレ（認知機能強化・作業訓練）」です。成果は、日中活動の時間でも相談し合うことが多くなり、自分の意見を伝える努力をし始めました。共同作業時にも身体の部位名称を正確に使いながら、動作を互いに確認しています。成長を実感しています。(沼田)



ヘルスケアサービスの一環として、成人に引き続き今年度から児童を対象とした栄養ケア・マネジメントを実施しています。健やかな成長・発育や食を通じた生活の質の向上を目指し、適切な栄養ケアを提供します。

また、今年度、バラエティーに富んだ食事を提供するため、約100種類の料理を追加しました。個別メニューや誕生日リクエストメニューも実施しています。

これからも、安全・安心でおいしい給食を提供するため、職員一同、一層努力します。(管理栄養士 八木)

みどりっこたちの成長を願って

わかば児童課長 岡崎由起美

4月に35名でスタートしたみどりっこたちですが、9月に1名、10月に2名の子どもたちを送り出し、1月に2名の子どもたちを迎えました。3月末には高等部3年生4名を送り出し、出会いと別れを繰り返しながら子どもたちの成長を見守って来ました。

年齢も障がい特性もそれぞれ違う子どもたちを理解し、コミュニケーションをとりながら成長を手助けするのが大切な課題です。子どもたちの得意なこと、興味のあること、苦手なこと、配慮すること、コミュニケーションの方法など、子どもの目線で子どもの言葉で書きとめたサポート情報メモを作成しました。作成することにより職員がより子どもたちのことを理解しようと努力することができ、棟の中でそれぞれの作成したものを意見交換することで多角的に理解が進み、情報を共有することに役立ったと感じています。子どもたちが「自分のことをわかってくれてうれしい!」と思えるような内容を目指して、子どもたちを知る努力をし続けなければならないと思っています。

これからも一人ひとりの子どもたちの成長を精一杯支援し、安全で明るく楽しい児童課にしていきたいと思えます。いろいろななかたちでお世話になった皆さまに心よりお礼申し上げます。

「子どもたちだけの外出」

これまでは集団での活動が多かった西棟ですが、今年度は職員と一緒に個別に外出をしたり、単独での帰省、外出をする機会を多く持ちました。

先日は高校生4人でイオン綾川へ映画を観に行きました。子どもたちで話し合っどどの映画を観るのか、何時の電車に乗ればいいのか時刻表で調べたり、分からないことは



「どの席にしようかな」



「チケット買えました!」

職員に聞くなどして事前に計画を立てました。外出した子どもたちに感想を聞くと、「少し不安はあったけど困ったことはみんなで相談しながらできたので大丈夫だった。自分たちだけで行けてよかった、また行きたい」と話してくれました。初めての子どもたちだけの外出で計画どおりに上手くいかないこともあったようですが、集団ではできない貴重な経験ができたようです。

(岩倉)

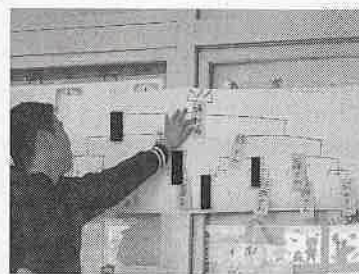


「映画楽しかったよ!」

「北棟の休日の過ごし方」

今年の冬は寒く雪も積りました。休日は散歩が定番ですが、なかなか行けず…。そんな中、子どもの意見を取り入れ、おやつ作りや紙飛行機大会、某アイドルグループのように北棟じゃんけん大会などを開催しました。

中でも一番盛り上がったのは、じゃんけん大会! トーナメント表を作り、職員も含め全員が参加しました。じゃんけんが難しい子どもは、カードを選んでもらい参加しました。勝って喜び、負けて悔しがると、参加賞の飴を笑顔で食べる子…いろいろな表情を見ることができました。職員が想像していた以上に子どもたちが参加でき、楽しんでいたことに、驚きと成長を感じました。(棧)



「じゃんけん大会トーナメント表」

成人式を迎えて 南棟の古川広樹さんが、成人式を迎えました。



ぼくは、20歳になりました。訓練班、就労班でがんばり、早くグループホームへ行きたいです。そして、いっしょうけんめいに働いてお金をためて、一人暮らしをしたいです。みんなのよいお手本になって尊敬されるような人になりたいです。(古川広樹)

出身町の成人式、地域の新成人祝賀会、出身校の新成人を祝う会に新調したスーツを着て出席しました。地域の祝賀会では、「自立して、一人暮らしをしたいです。」とみんなの前で立派に抱負を述べました。ここまで育ててくれたご両親も、無事成人を迎えたことを大変喜ばれています。これからも、目標に向かってがんばって欲しいと思います。(山地)



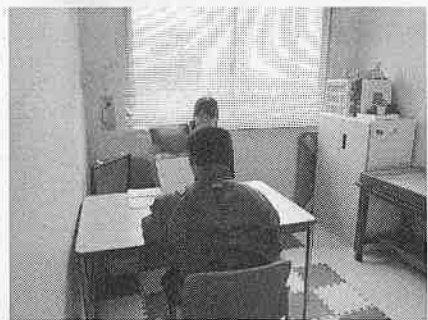
トピックス

「心理室」から

みどり園に心理室があるのをご存知ですか？ 実はあるんです。

心理室では、“こころの先生”が、主にみどり園の子どもたちに心理面接を行っています。子どもたちも、普段の生活からちょっと離れて、1対1で落ち着いて話ができる場で、ホッと一息ついて帰って行っているようです。

今年度は、子どもたちの心理面接に加えて、生活訓練班で行われているヨガの効果を調べるために、班のメンバーに検査を実施しました。皆さん、検査と聞いて緊張していましたが、がんばって答えてくれました。(心理士 中山)



<来年度の案内 研修や行事>

いよいよ計画相談は追い込みの時期。さらに、強度行動障害支援の研修についても国から大枠が示される予定です。各種研修の開催時期は、決まり次第みどり園のホームページに掲載します。今後とも、積極的なご参加をお願いします。(有岡)

苦情解決処理状況

(平成25年10月1日～平成25年12月31日) 苦情受付件数 0件

村上 昭史

県に心理職として入庁して、最初の2年間をみどり園で過ごしたのは、貴重な経験でした。最後の2年を再びみどり園で園長として勤めることになるとは当時想像だにしませんでした。若かった時は楽しい思い出、終わりの2年はやりがいも多く、思い出尽きない職場です。過去のそして今のみなさんありがとうございました。

山地 美恵子

四季折々に花々や木々の美しいみどり園で心を癒され、楽しく仕事をさせていただきました。

私の人生にとって、ここで多くのことを学ばせていただき、利用者さんたちの澄んだ眼差しは忘れません。ゆとりある心で接すると利用者さんにも反映され、会話はできなくてもコミュニケーションが深まります。福祉は、心であるということをつくづく感じました。今まで利用者さんや職員を送り出しましたが、やっと自分が送られる日を迎えました。振り返れば年月が過ぎるのは早いものだと思っています。

みなさん長い間お世話になりありがとうございました。

石井 待子

川部みどり園は、1番長く通算20数年いました。新採3年目、みどり園建て替えの時、退職前と3回来ました。

幼児だった人が40歳を超え、いろんな人たちの成長を見ることができました。

思い出のいっぱい詰まったみどり園を最後に卒業できることは幸せでした。いろんな人との出会いもありました。長い間本当にお世話になりました。

高田 眞理

寒かった冬も徐々に小さな春に席を譲り、木々は芽吹き、花も一斉に咲き始めました。

私こと最後まで勤め上げることは叶いませんでしたが、今日まで何とか頑張れたのはひとえに、元気をくれた子どもたちや陰に日向に支えて下さった皆様のおかげと思っています。ありがとうございました。子どもたちはそれぞれ卒業・進級のときを迎え、これから開かれる未来に向かって歩み出しています。私も子どもたちに習い、健康に留意し、人との交わりを大切に、自分の一回きりの人生を納得いけるものにしたいと思っています。

編集後記

例年より多くの雪が降り、とても寒い冬でした。

今回はまとめだけでなく、新しく取り組んでいることを紹介させていただきました。みどり園はどんどん進化して行っていることを、少しでもお知らせできたかと思います。(棧)

編集・発行 〒761-8046 高松市川部町418

香川県立川部みどり園 TEL(代)087-885-8600

E-mail:midorien@pref.kagawa.lg.jp

http://www.pref.kagawa.lg.jp/shogaihukushi/midorien/